

# 2015年世界サブジュニア・ジュニア パワーリフティング選手権大会レポート

(チェコ共和国・プラハ)

報告： 国士舘高等学校パワーリフティング部

顧問： 中谷幸市

平成 27 年 9 月 9 日

今年の 2015 年世界サブジュニア・ジュニアパワーリフティング選手権大会はチェコ共和国プラハ市で行われた。

今回も日本選手団は、京都学園大学パワーリフティング部監督・JPA 理事の三浦先生が団長の指揮を執り、浦和学院高等学校の藤野先生が副団長として、安全第一を基盤に、全選手の大会成功を目標とし、整然かつ団結を期して、8 月 29 日(土)9 時 55 分成田を飛び立った。

その選手団の帯同審判として、伊差川さん、中谷（国士舘高等学校教諭・JPA 監事）が加わり、選手の試合上のサポート・主管であるチェコ PL 協会並びに IPF に対する協力を行った。

選手はサブジュニア女子 7 名、男子 8 名で、ジュニア女子 7 名、男子 9 名のほぼフルエントリーである。

それに、JTB 添乗員の鳥屋尾さん、サブジュニアの植村さんのお母さんを含め総勢 37 名の大選手団である。（伊差川さんのご都合上、日程の前後は同行できない。）

選手各人が最善を尽くし、その結果が団体戦に反映され、1 点でも多く得点を加算し、上位を目指すことが日本選手団の当然の願いだ。

サブジュニアの高校生は経験も浅く、緊張気味の選手がほとんどなのであるが、ジュニアのお兄さん、お姉さん選手達は経験も豊富で、気軽に後輩たちに助言やサポートをしてくれるので、高校生たちの大きな心の支えになっている。

選手たち全員の目標や目指すところは同じなので、お互い自然に心の会話ができていようだ。



本年度世界ジュニア・サブジュニアはチェコプラハで開催された。

また、我々大人は、純粋な若き選手たちの心の拠り所的な、親の立場にならなくてはいけない。

その縦横の結束・協力がこの選手団の成功の鍵となることは言うまでもない。

異国の地であるので、想定される様々な事故だけは、必ず避けねばならない。

これが選手団を率いる我々大人たちの責任である。

長い長い約 13 時間（フランクフルトで乗り継ぎあり。）飛行の旅を終え、大体予定通りの 18 時にホテル OREHA HOTEL PYRAMIDA に着いた。（しかしながら、外国のホテル事情は日本のそれと大きく違い、

全く酷いものである。前もって全員分の氏名と部屋割りを送ってあるにもかかわらず、全くのでたらめで、ダブルブッキングが2組、ツインなのにシングル用のベッド1つが2組といきなりてんやわんやな余計な時間が掛かり、予定していたスーパーの買い出しが近くのコンビニのようなところで、取敢えずのものを揃えただけであった。)

## 8月30日(日)

6時30分からの朝食を各自とり、10時ロビー集合で大会会場の視察と、昨日閉まってしまったスーパーに買い出しに行く。

まず、会場を見に行った。

会場はホテルの0階（ロビー階）で、ロビーから1分のホールで、200人位入れれば一杯になりそうな大きさで、ほぼ完成されていた。

次にアップ場を確認したが、ホテル内の仕切ったいびつな空間に所狭しと器具が入っているので、明日から選手とコーチで溢れかえって酸欠になりそうな状態を想像してしまった。

最後に検量室を確認して、買い出しに出た。

今日は日差しが強く、日中は33℃まで上がるらしい。

ホテルの周りは坂ばかりで、歩くには辛く、重量級はすぐ汗まみれだ。

Billaというショッピングセンターは上り坂を1km歩いたところにあるが、選手の皆さんは実に楽しそうに談笑しながら、綺麗な家並みや景色を楽しみながら到着した。

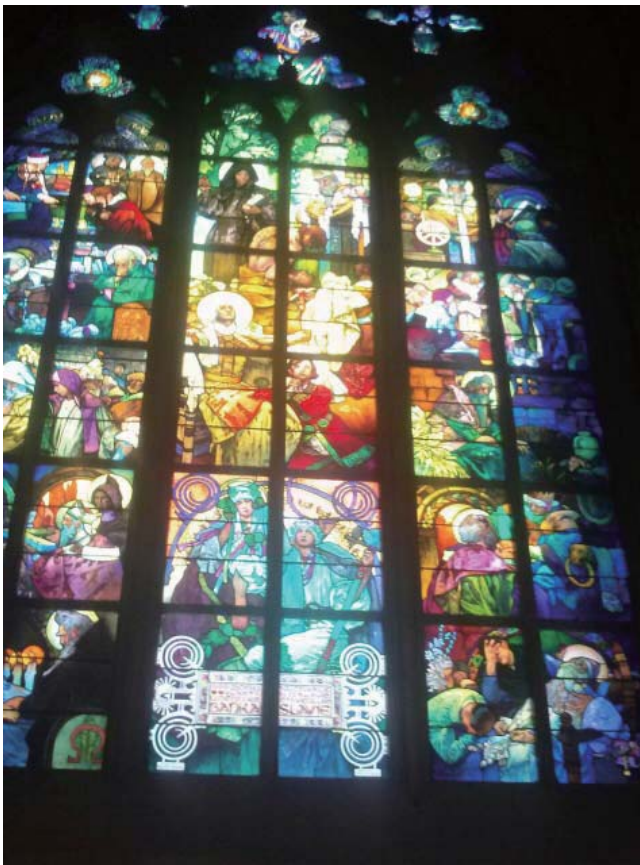
このショップは、それほど大きくないが、食品は大体何でもそろっている。

さすが男子の選手は、「肉が食いたい！肉が食いたい！」というので調理しないで食べられるハムの塊やグリルした肉のコーナーでソーセージやチキン1羽丸焼きにしたものを買っていた。

私も昼食用にチキン丸焼きとパン、間食用に生ハム2つと4lの水を買った。(結構安くて、全部で800円位)

軽量級的女子も2lの水を6本まとめたものを買って平然と持ち帰っていた。(さすがパワ女！)

その後は、夜のテクニカルミーティングの内容伝達で9時30分ロビー集合ということで、解散し、選手は部屋でくつろいだ。





9時30分集合

団長三浦先生より、伝達

1. セッションの時間変更2点
2. アップ場と選手控室の人数制限
3. 基本的に1人1人にみんなで応援を最終日、最終セッションまで貫く。(次の日に試合のある選手は、部屋で休憩OK)
4. ホテルにはプールとトレーニングジムとサウナが自由に使えるが、周りの選手の試合に気を配り、チームジャパンの最終選手が終わった後にする。
5. 明日以降全体で動くことはできないので、買い出し、食事に外に出ることは仕方ないところだが、必ず複数で行き、決して単独行動は認めない。(事故・被害の防止)
6. 自分たちで判断しかねるようなことがあるときは、必ず先生や添乗員鳥屋尾さんに相談すること。

## 8月31日(月) いよいよ試合が始まる！

### 第1セッション 《女子43kg級、47kg級のサブジュニア(以下Sjr)とジュニア(以下Jr)》

日本人のトップバッターでサブジュニア47kg級 植村 菜由選手(浦和学院高等学校)は、緊張気味の表情だが落ち着いて全9試技成功の5位入賞、デッドでは3位に入り、昨年貰えなかったメダルを貰って、お母さんも大喜びである！(選手団の中で唯一出発から帰国する最後まで付き添いのお母様である。)

(私は次のセッションの主審のため、スクワットの第1試技途中でコスチュームチェック・検量に向かう。)

ジュニア43kg級 根本 梢選手(個人)は、USAの選手と一騎打ちであったが、スクワットとデッドで2.5kgずつ負けるが、ベンチでは逆に10kgの差をつけて勝ったため、金メダル・国歌君が代斉唱の第1号となり、幸先よく日本選手団が勇気づけられることとなった。

ジュニア47kg級 早川琴果選手(阪南大学)は、4位入賞、ベンチプレスで銀メダルを獲得できた。

ジュニア47kg級 入船美月選手(岡山大学)は6位入賞と頑張った。

《オープニングセレモニー》14:30～

各国の選手代表がプラカードを持ち、軽快なBGMの中ステージに集まった。

挨拶には、チェコパワーリフティング協会会長、ガストンIPF会長からあり、会場大喝采の中、これからの熱戦を期待するような空気が漂う。



審判紹介、中央が中谷審判員

## 第2セッション 《男子53kg級のSJ rとJr》… 中谷、国際大会初主審

SJ r 53kg級 高野晃輔選手（伊奈高等学校）は、4位入賞とデッドで銀メダルを獲得した。

Jr53kg級 新井一真選手（東京農業大学）は、ロシア・アメリカ・日本の三巴戦の中、銀メダルに輝いた。

私は初の主審として、少々緊張したが、なるべく大きな声で、はっきりとメリハリをつけたアクションで行ったところ、ベンチに入るときにルクセンブルグのWERNERLAUが私のところまでやってきて、「主審！いいじゃないか！」と言ってくれた。

彼はいつも日本選手に優しく、日本人に友好的なお人柄なので、4年前から好感を持って接している。

初日は早く終わったので、部屋でゆっくりすることができた。

チェコは涼しいと予想をしていたが、連日33℃、34℃で暑く、更にはホテルの部屋によってエアコンの効き方が違い、私の部屋はエアコンの風が送風のようなただ暑いばかりで、私のような重量級にはたまらない。夜も熱帯夜で、寝苦しく、寝汗たっぷり、シャワーばかり使った。

### 9月1日(火)…試合2日目

#### 第1セッション 《女子52kg級のSJrとJr》…中谷、テクニカルコントローラー (TC)

SJ r 女子52kg級 赤澤 恋選手（厚木商業高等学校）選手は5位入賞、Jr 女子52kg級 南 采沙（京都学園大学）はSQを3本とも高さをとられて失格したが、3本目の時、白1、赤2で失敗判定であったが、陪審員全員白と判定したが、コーチが素直に引き下がったため、失格してしまった。

この後、陪審員に入っていた伊差川さんが、三浦ヘッドコーチに、「抗議に来れば、成功にできた。」と言われた。（後日、男子105kg級の横山選手時の3本目、同じく白1赤2で失敗判定であったが、陪審員全員白と判定し、抗議する前に失敗判定を覆し、成功とした。なぜこのとき、同様に扱えなかったのか？疑問が残る。）

そのあと、果敢にベンチ、デッドとやるが、デッドの1本目に腰を痛めてしまいあとは、棄権した。

52kg級 藤浪瑠麗（パワーハウス）選手は、5位入賞。

#### 第2セッション 《男子59kg級のSJ rとJr》

SJ r 男子59kg級 村田元輝選手（厚木商業高等学校）は、スクワット2位、ベンチ世界記録の1位、デッド3位で、惜しくもトータルは2位となった。（ドーピング検査1号となる。）



トータルで第二位に輝いた木内選手



59kg級 佐竹優典選手（青山学院大学）は、スクワット2位、ベンチ2位でトータル5位。昨年SJ rの世界チャンピオンだが、Jrになった今年はそう簡単には取らせてくれない。（本人は相当悔しがっていたが、あまり突っ走りすぎて、怪我を呼び寄せないように願う。間違いなくJr世界チャンピオンになる素材だ。）

### 第3セッション《女子57kg級のSJ rとJr》

SJ r女子57kg級 来栖 彩（常総学院高等学校）選手は、まだ高校2年生で初の世界大会で試技に入るとき、極度の緊張のあまり泣き出してしまった。しかし、何とか成功して、トータル7位入賞に終わった。

同じく57kg級 小林展代（春日部共栄高等学校）選手は昨年を経験しているので、落ち着いた試合運びで、周りを安心させ、トータル5位入賞だった。（スクワットの時、ピンクの大きなリボンを右側頭部に付けて、可愛く目立った。）

### 9月2日(水)…試合3日目

#### 第1セッション《男子66kg級のSJrとJr》

SJ r 66kg級 中山優希（春日部共栄高等学校）選手は、トータル6位入賞

Jr66kg級 鈴木 豪（ESQUATIA）選手は、ベンチ銅メダル、トータル5位入賞、

Jr66kg級 木内陽介（青山学院大学）選手は、スクワット銅メダル、デッド銅メダル、トータル2位。

2人はライバルで、前回の全日本では、鈴木君が勝ち、今回は木内君が雪辱を果たした形である。

木内君は同出身校の佐竹選手と同じく昨年SJ rの世界チャンピオンであるが、Jrの1年目で2位は凄すぎる。（この試合までに、2度も大腿二頭筋の肉離れを起こしていたが、大会に掛ける執念が勝ったのだろう。）

#### 第2セッション《女子63kg級のSJrとJr》…中谷はサイドレフェリー

SJ r 63kg級 吉田 真優（春日部共栄高等学校）選手は、トータル7位入賞。吉田選手も初出場なので、ものすごく緊張しているのが、サイドレフェリーの席から感じ取れたのだが、緊張の中でも吉田選手は、上ずった大きな声で「お願いします。ありがとうございました。」と言い、しっかりお辞儀をしているの態度を見て、思わず涙が出そうになってしまった。（これぞ日本選手の素晴らしさである。）

Jr63kg級 寺原 万留々（京都学園大学）選手は、スクワット200kgで金メダル、トータル4位入賞。

寺原選手は、昨日の9/1付の全国版の朝日新聞にトレーニング風景の写真入りの記事が出たばかりであった。

とにかく、バネがあり、スクワット、デッドに秀でた体力の持ち主で、世界に通用することを、証明してくれた。（スクワット200kgの日本記録達成）…伯父さんである三浦団長も元陸上の砲丸投げの日本代表選手であるため、やはり、最強のDNAは受け継いでいるのだろう。（三浦先生の現役時代のお話をお聞かせいただいた内容によると、生でベンチ200kg、デッド330kg、握力120kgで“怪力”と言われておられたそうである。）



京都学園女子の大活躍が新聞で大きく報道された。写真中央は、女子200kgスクワットを達成した寺原選手。

### 第3セッション《男子74kg級のSJrとJr》…中谷は石川君のセコンド

第2セッションのサイドレフェリーを終え、すぐに第3セッションのセコンドに入るため、石川君のコスチューム・検量には行けないことを前もって告げ、それに対して周りがカバーしてくれた。(日本選手団のフットワークは素晴らしい!)

SJ r 74kg級 矢木 龍馬(八州学園大学国際高等学校)選手トータル6位(ベンチ日本記録達成)矢木君は沖縄県糸満市出身で、その地域は、終戦間近、アメリカ軍上陸による攻撃で、火の海と化した未曾有の大惨事に見舞われた。戦後70年の今年、戦争を知らない子ども達が、平和の祭典の舞台で世界交流をしている。感慨深いものがそこにある。

SJ r 74kg級石川裕二(常総学院高等学校)選手トータル7位入賞。石川選手の後輩来栖さんは、献身的にマッサージ・ストレッチを行っていた。同じ仲間の相手を思う気持ちに、心打たれた。

Jr74kg級 鈴木 喜稀(東海大学)選手は、トータル7位入賞。

Jr74kg級 逢野 崇大(阪南大学)選手は、ベンチ銅メダル、トータル8位入賞

### 9月3日(木)…試合4日目

#### 第1セッション《男子83kg級のSJrとJr》

SJ r 83kg級 堀口徹也(浦和学院高等学校)選手は、8月の全日本から5kgも痩せ、こちらに来てからも、1kgも減ったようで、スーツ、シャツの反発は激減してしまった。トータル5位入賞。(堀口耀介選手の弟さんである。)

Jr83kg級 古川 潤(京都学園大学)選手は、ギアがあまり効かず、デッドはノーギアの方がいいらしい。トータル6位入賞。

#### 第2セッション《女子72kg級のSJrとJr》

SJ r 72kg級 工藤みちる(常総学院高等学校)選手は、トータル4位入賞

SJ r 72kg級 篠田あさみ(浦和学院高等学校)選手は、トータル6位入賞

Jr72kg級 仲野 衣美(阪南大学)選手は、トータル8位入賞

このセッションのコスチュームチェックで信じられないことが起こった!

主審のKERSTIN KLAWITER THOMSEN(独)とTCのALEXSADR BYKOV(露)が、「スーツの肩紐は、3cm以内だから、切れ」と言い出し、同行していた鳥屋尾添乗員や選手が「それはルールと違う。確認に行く。」といっても聞かず、審判自らハサミで、その肩紐を切ってしまった。

それを、会場にいた私に鳥屋尾添乗員が言い、私は「そんな馬鹿な話はない。そのレフェリーは、ルールを理解していない、真面目にルールを守っている選手た





ちが可哀そうだ。それは、きちんとさせて、弁償してもらいましょう！」と言って、たまたまその事件に居合わせた、伊差川さんが技術委員長のスミスさんに報告すると、ガストンにも伝わり、スミス、ガストン、伊差川さんで、2人のレフェリーのところへ行き、

猛抗議をしてミス認めさせ、後で弁償の処置を決めることになった。(2人レフェリーは、お互いに責任をなすり付けあって、責任転嫁しているらしい。)

私が一番忌嫌うことが起こってしまった。生徒、学生を傷つけないよう、守るために来ているのに、そんな酷いことが起こってしまい、ショックである。これからの、純粋な若い子たちに絶対してはいけない行為である。選手である被害者が、大人の理不尽な振る舞いに対し、今後、人間不信になりかねない行為である。

私は、かねてより、世界大会に自費でも駆けつけなければならぬと思っている理由は、自分の教え子のためであり、若い選手たちのためであり、日本選手団のためであり、ひいては日本のためだと思って参加している。

今回のことは、本当に心が痛い！

鳥屋尾添乗員が私を探しに来た時に会えなかったことが、本当に悔やまれる！

もし、私が切られる前に駆けつけられたら、ルールブックを片手に、唸り飛ばしてやっつろうに！

## 9月4日(金)…試合5日目

### 第1セッション《女子84、+84kg級のSJrとJr》…日本チーム出場者なし

### 第2セッション《男子93kg級のSJrとJr》…中谷は、教え子高島のセコンド！



SJ r 93kg級 高島皓介(国士館高等学校)選手は、8月2日の全日本で、優勝はするものの、春の大会より自力がアップしてものにも関わらず、結果は10kgもマイナスであったことを反省材料に、世界大会までの残りの練習を考え実行した。その結果、スクワット250kg(自己新)、ベンチ160kg(自己新)、デッド220kg(自己タイ)のトータル630kgと夏の大会の記録を25kg増やすことができた。そして運よく、ベンチでは銅メダルを獲得することができた。

振り返ると、2年と4月前、バーベルも握ったことがない少年がよくここまで成長したものだと感心する。



国士館高校高島選手、ベンチでメダル獲得。写真上は教え子の高島選手と、中谷先生

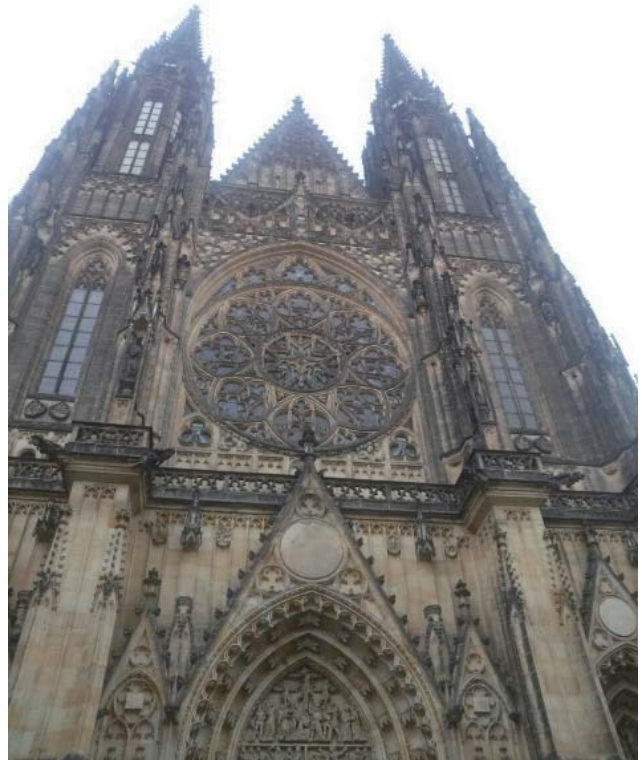
### 第3セッション《男子105kg級のSJrとJr》

SJr 105kg級 柏木悠太郎（春日部共栄高等学校）選手は210kgのスクワットがめちゃくちゃ軽いのに、ホーム的に平行以下までしゃがみにくそうで、3本とも失敗してしまった。

逆に、得意のベンチは軽快にトップを走り抜け、全試技成功で金メダルを獲得できた。

Jr105kg級 堀口 耀介（青山学院大学）選手は、まともなスクワットのしゃがみを取られ、3本とも失敗した（さすがに3本目はしっかりしゃがんでいるようだが、ヘッドコーチの三浦先生・通訳鳥屋尾添乗員が、陪審員の技術委員長スミスに抗議に行くがしゃがみが足りないとい蹴された。）が、ベンチで300kgを軽く上げ、柏木君と同様、金メダルを獲得した。（この300kgは世界記録であったが、スクワットで失格したため、公認されなかった。実力的には、トータルでメダルに届く選手なので、大変残念である。本人はルクセンブルグの世界PL大会で借りを返す！と言っていた。）

105kg級 横山 恭平（阪南大学）選手は、先ほどにも触れた、スクワットで生き残った選手である。（3本とも失敗したが、3本目の白1赤2には、日本の抗議に行く前に、陪審員3名が成功と認め、スミスが放送担当に成功と告げ判定を覆した。）トータル6位入賞。（横山君は声はよく出るし、周りのサポートは率先してやるし、正に今回の応援団長である。）



試合の後は、プラハ観光



おめかしして、さよならパーティーへ。



この後、USA のロバートから連絡事項があるのでコーチ、選手、レフェリーは、ここに集合するよう伝達があった。その内容は、ガストンから「来年第 1 回の世界大学選手権パワーリフティング選手権大会をロシアで行い、各国から、3 校を選考して、ノーギアルールで行う。詳細はこれから詰めていくので、IPF からの情報をよくチェックしておくように。」と述べ、更に、「IPF はオリンピック参入を目指しているので、IOC の調査より、パワー人口やパワーの人気を知るため、IPF のホームページをよくチェックして、アクセス回数を増加に協力願いたい。」と言っていた。

以上で、大会 5 日目で、日本選手全員 31 名の試合が終わった。

明日は、大会の最高潮に盛り上がる、男子 120kg、+120kg級の最強対決である。

日本選手団は、午後 8:00 のサヨナラパーティーの集合時刻午後 7:10 まで、自由時間となった。しかし、明日プラハの街の 1 日観光なので、勝手に遠くには絶対行かないように釘を刺された。

### 9月5日(土)…試合6日目《男子120,+120kg級のSJrとJr》…日本選手出場者なし

最重量級の激しい高重量の戦いの後は、締めくくりのサヨナラパーティーだ。

選手各自しっかりとおめかしをし、また、大会関係者は大会会場をパーティー会場に手早く改装し



パーティーで役員とおしも親交を深める。

て、20時のオープニングでガストンから挨拶、主管協会のチェコ協会より挨拶し、団体戦・ベストリフターの表彰、乾杯・歓談・ディスコで大いに盛り上がった。(団体戦は男子S J r、J rとも仲良く4位、女子はS J r 5位、J r 4位、ベストリフター男子S J r 村田君3位)

選手の間には、いつも恒例ののあこがれの選手との写真撮影で交流を深めた。

### 9月6日(日)・・・プラハ観光(ミュシャの美術館・旧市街広場・カレル橋・プラハ城・聖ヴィート教会)

ホテルからすぐ近くであるが、チャーターバスに乗りミュシャ美術館近くでおり、健康的にトータル15000歩ほどを歩き、素晴らしい景観を堪能した。

世界遺産にもなっている綺麗な市街を散策し、撮った写真が知らぬ間に驚きの枚数になってしまうような感動のひとつで、選手の思い出が一杯になったようである。

思い出、御土産をたくさん買って、満足そうな選手たちにホッとした。

チェコの伝統料理をみんなで食べて、ホテルに帰り、最後の夜を過ごし、明日の帰国の準備をして就寝した。

### 9月7日(月)

各自最後の朝食を取り、チェックアウトの後の10時にバスにて、空港に向かいまた、長い長い飛行機の旅が始まった。

### 9月8日(火)

羽田に時間通りに到着し預け荷物をうけとり、入国審査の後、全員の点呼を取り、団長から挨拶、添乗員から挨拶をして貰い、解団式は終了した。

事故、病気など一切なく帰ってこれたことは本当に良かったし、それと同時に、選手一人一人の自覚があったことだからこそだと思う。

三浦団長をはじめ、藤野副団長、鳥屋尾添乗員、伊差川さんの結束、姿勢、情熱が選手たちに届き、けじめ、節度のある行動が今回の成功に繋がったものを感じる。

選手たちは明るく打ち解けあって、団体としての結束と協調性の取れた、いい形の日本選手団に完成されたところで解団である。

今回の感動といい思い出を胸に、また来年と、日々頑張ってもらいたいと思う。

私も、本校の生徒が選考され続けられる限り、生徒のために、選手たちのために、日本のために力を注ぎたいと強く思っている。

最後に、このレポートの中で各選手試合光景の記述には、私の審判実務等がありました関係で濃淡はありますがご容赦願いたい。



プラットフォームに全員集合！！



# 報告：沖縄県、盛龍也

沖縄の新聞に世界サブジュニア選手権で74kg級6位に入賞し、ベンチプレスでは160kgの日本新をマークした矢木選手が大きく報道されました。

### 74kg級の矢木 世界選手権へ パワーリフティング

31日、チェコのプラハで開催するパワーリフティングの世界サブジュニア選手権大会の74kg級に、那覇市の「POWER SPORT」所属の矢木龍馬が出場する。

25日、伊差川浩之コーチと共に沖縄タイムス社を訪



パワーリフティングの世界サブジュニア選手権に出席する矢木龍馬(右)と伊差川浩之コーチ(沖縄タイムス社)

れた矢木は「3種類のトータルとベンチプレスで日本記録を狙えるところまで来ている。大会でマークしたい」と意気込んだ。

矢木は昨年10月から競技を始め、この10月の日本選手権で優勝し、日本代表の座をつかんだ。

トータルの日本記録597.5kgに対し、矢木のベストは530kgで「頑張れば日本記録に届くところまで来ている」(伊差川コーチ)と大鼓判を押す。

74kg級は現地時間の9月30日に行われる。

## 矢木74kg級6位

### パワーリフティング

龍馬(POWER SPORT)がトータル500kgで6位入賞した。

パワーリフティングの第15回世界サブジュニア選手権が8月31日～9月6日、チェコのプラハで行われ、男子74kg級で初出場の矢木



本新記録の160kg、デッドリフト215kgを挙げた。

5kg、ベンチプレスで日本新記録の160kg、デッドリフト215kgを挙げた。

## 矢木トータル6位

### ベンチプレスは日本新

#### 重量挙げ 世界サブJr

6日までチェコ・プラハで行われたパワーリフティングの世界サブジュニア選手権大会で、男子74kg級に



出場した矢木龍馬(POWER SPORT)はトータル590kgで6位だった。

ベンチプレス160kgは日本新記録で、デッドリフトとスクワットは215kgを挙げた。

初の世界大会で6位に入った矢木龍馬(提供)

## 矢木、世界Jrでメダルを狙う

### パワーリフティング

9月2日チェコプラハで行われる世界ジュニア・サブジュニアパワーリフティング選手権大会に矢木龍馬(POWER SPORT)所属が出場する。矢木は3月の国内選手権大会でトータル530kg(スクワット195kg、ベンチプレス135kg、デッドリフト200kg)で優勝し、チェコの大会



はサブジュニア(14歳～18歳)に出場、トータルでトップ10入り、ベンチプレス

でメダルを狙う。

25日、POWER SPORTの伊差川浩之代表と琉球新報社を訪れた矢木は「日本記録を塗り替えた。ベストを尽くす」と抱負を述べた。

矢木は18歳。トレーニングを本格化させたのは昨年10月で、わずか1カ月後の県民大会で優勝した。伊差川代表は「結果が示す通り才能がある。トータルで600kgが届くところまでいけると思っています」と期待した。

## INTERNATIONAL POWERLIFTING FEDERATION

World Juniors &amp; Sub-Juniors Men's Championships, Prague (Czech Republic), 30.08-06.09.2015

## DETAILED SCORESHEET

PL.	Lifters	BY	Team	Weight	All Squat			All Bench Press			All Deadlift			TOTAL
<b>Sub-Juniors</b>														
<b>-53kg</b>														
1	Valciukas Egidijus	1998	LTU	52,08	210,5-ws	220,0-ws	<del>230,0</del>	130,0	<del>140,0</del>	140,0	130,0	<del>140,0</del>	<del>145,0</del>	490,0
2	Johnson Kenneth	1997	USA	52,24	167,5	175,0	182,5	75,0	85,0	<del>90,0</del>	177,5	187,5	195,0	462,5
3	Anuarov Adlet	1999	KAZ	52,84	<del>180,0</del>	<del>185,0</del>	185,0	<del>195,0</del>	105,0	110,0	155,0	162,5	167,5	462,5
4	Takano Kosuke	1997	JPN	52,72	157,5	167,5	<del>177,5</del>	<del>85,0</del>	85,0	92,5	155,0	162,5	170,0	430,0
5	Parshukov Pavel	1999	RUS	52,67	152,5	160,0	170,0	92,5	100,0	105,0	140,0	150,0	<del>165,0</del>	425,0
<b>-59kg</b>														
1	Dolqulev Danila	1998	RUS	58,39	220,0	230,0	235,5-ws	125,0	132,5	140,0	187,5	195,0	<del>200,0</del>	570,5
2	Murata Motoki	1997	JPN	57,82	<del>190,0</del>	190,0	205,0	161,0-ws	173,0-ws	<del>181,0</del>	170,0	190,0	<del>200,0</del>	568,0
3	Soria Diego	1998	ECU	58,36	<del>205,0</del>	205,0	<del>215,0</del>	110,0	120,0	<del>125,0</del>	195,0	202,5	<del>205,0</del>	527,5
4	Binder Markus	1998	AUT	58,74	160,0	172,5	185,0	100,0	<del>107,5</del>	107,5	165,0	177,5	X	470,0
5	Wiacek Pawel	2000	POL	56,24	110,0	120,0	125,0	55,0	<del>60,0</del>	65,0	120,0	130,0	137,5	327,5
<b>-66kg</b>														
1	Poroshin Andrey	1997	RUS	64,64	225,0	230,0	<del>240,0</del>	145,0	152,5	157,5	230,0	240,0	<del>247,5</del>	627,5
2	Tulegenov Kuanyshev	1998	KAZ	65,38	230,0	240,0	<del>247,5</del>	155,0	<del>160,0</del>	160,0	195,0	<del>202,5</del>	<del>202,5</del>	595,0
3	Gliebe Nikolas	1997	AUT	65,26	<del>227,5</del>	235,0	<del>242,5</del>	135,0	142,5	150,0	182,5	195,0	202,5	587,5
4	Warren Shawn	1999	USA	65,05	212,5	<del>222,5</del>	<del>227,5</del>	117,5	125,0	132,5	217,5	230,0	<del>242,5</del>	575,0
5	Voelkel Michael	1998	USA	65,03	212,5	<del>222,5</del>	<del>227,5</del>	120,0	127,5	<del>137,5</del>	210,0	<del>220,0</del>	<del>220,0</del>	565,0
6	Nakayama Yuuki	1997	JPN	65,54	200,0	210,0	<del>220,0</del>	120,0	130,0	<del>132,5</del>	170,0	180,0	185,0	525,0
7	Sherwood Joe	1998	GBR	61,30	130,0	137,5	142,5	77,5	85,0	87,5	140,0	147,5	157,5	387,5
—	Ruzimuradov Ruslan	1998	UKR	65,34	<del>227,5</del>	<del>227,5</del>	<del>227,5</del>	165,0	170,0	175,0	210,0	220,0	<del>225,0</del>	DSQ
—	Kudresovas Lukas	1997	LTU	65,73	202,5	212,5	220,0	<del>150,0</del>	<del>150,0</del>	<del>150,0</del>	210,0	<del>222,5</del>	<del>222,5</del>	DSQ
<b>-74kg</b>														
1	Sheruntaev Vladislav	1997	RUS	73,76	250,0	260,0	270,0	155,0	162,5	165,0	235,0	245,0	255,0	690,0
2	Beilmann Viktor	1997	GER	73,57	<del>255,0</del>	262,5	<del>270,0</del>	135,0	145,0	152,5	245,0	255,0	<del>275,0</del>	670,0
3	Chorny Vladislav	1997	UKR	73,81	<del>260,0</del>	270,0	<del>282,5</del>	130,0	<del>140,0</del>	140,0	245,0	255,0	<del>262,5</del>	665,0
4	Kuntuganov Rustam	1997	KAZ	73,52	235,0	247,5	260,0	<del>160,0</del>	<del>160,0</del>	160,0	225,0	<del>240,0</del>	<del>250,0</del>	645,0
5	Bilyk Andriy	1998	UKR	72,80	240,0	<del>250,0</del>	<del>250,0</del>	150,0	155,0	160,0	210,0	<del>225,0</del>	225,0	625,0
6	Yagi Ryoma	1997	JPN	73,77	205,0	215,0	<del>220,0</del>	152,5	160,0	<del>165,0</del>	205,0	215,0	<del>225,0</del>	590,0
7	Ishikawa Hiroshi	1997	JPN	73,68	200,0	210,0	<del>220,0</del>	140,0	<del>145,0</del>	145,0	190,0	200,0	<del>205,0</del>	555,0
8	Sherman Daniel	1998	GBR	71,96	200,0	210,0	<del>215,0</del>	115,0	122,5	127,5	210,0	<del>220,0</del>	<del>220,0</del>	547,5
9	Sutkus Tautvydas	1997	LTU	72,83	180,0	190,0	<del>210,0</del>	<del>140,0</del>	140,0	<del>150,0</del>	200,0	<del>210,0</del>	<del>210,0</del>	530,0
10	Pavlicek Jan	1997	CZE	73,16	150,0	160,0	<del>165,0</del>	125,0	130,0	<del>137,5</del>	160,0	175,0	<del>190,0</del>	465,0
<b>-83kg</b>														
1	Musienko Kostiantyn	1997	UKR	81,85	260,0	272,5	<del>282,5</del>	210,0-ws	225,0-ws	235,0-ws	235,0	250,0	262,5	770,0 -cs
2	Garrett Tyrann	1997	USA	82,01	265,0	<del>277,5</del>	277,5	162,5	170,0	177,5	257,5	267,5	<del>272,5</del>	722,5
3	Kotenyov Ilya	1998	KAZ	82,83	245,0	260,0	267,5	155,0	165,0	172,5	245,0	262,5	270,0	710,0
4	Taylor Raynard	1997	USA	77,21	255,0	<del>262,5</del>	262,5	150,0	162,5	172,5	260,0	270,0	<del>275,0</del>	705,0
5	Horiguchi Tetsuya	1997	JPN	76,80	190,0	205,0	<del>210,0</del>	152,5	<del>160,0</del>	<del>162,5</del>	180,0	<del>190,0</del>	<del>190,0</del>	537,5
<b>-93kg</b>														
1	Poplygin Prokhor	1997	RUS	92,40	260,0	275,0	<del>280,0</del>	222,5-cs	230,0-ws	238,0-ws	250,0	265,0	<del>280,0</del>	778,0
2	Kiploks Uldis	1997	LAT	92,13	240,0	255,0	270,0	130,0	150,0	160,0	280,0	300,0	<del>310,0</del>	730,0
3	Cazacu Alexandru	1997	ROU	92,51	<del>252,5</del>	267,5	272,5	162,5	170,0	175,0	222,5	237,5	<del>247,5</del>	685,0
4	Ducky Markus	1997	SVK	88,37	250,0	265,0	270,0	140,0	152,5	<del>162,5</del>	215,0	232,5	247,5	670,0
5	Takashima Kosuke	1997	JPN	86,81	230,0	250,0	<del>255,0</del>	150,0	160,0	<del>165,0</del>	210,0	220,0	<del>225,0</del>	630,0
6	Bartkevicius Robertas	1997	LTU	91,99	200,0	220,0	<del>230,0</del>	140,0	160,0	<del>167,5</del>	220,0	235,0	245,0	625,0
<b>-105kg</b>														
1	Ermolaev Daniil	1997	RUS	104,17	310,0	<del>330,0</del>	<del>336,0</del>	200,0	210,0	<del>215,0</del>	260,0	<del>270,0</del>	<del>270,0</del>	780,0
2	Walker Julious	1999	USA	103,38	282,5	297,5	<del>307,5</del>	140,0	<del>155,0</del>	155,0	252,5	267,5	272,5	725,0
3	Cowman Mitchell	1997	USA	103,69	242,5	255,0	265,0	197,5	<del>207,5</del>	207,5	237,5	247,5	<del>252,5</del>	720,0
4	Marcelis Lukas	1997	LTU	97,14	207,5	222,5	230,0	135,0	145,0	<del>150,0</del>	237,5	247,5	252,5	627,5
5	Yachshenko Vladimir	1997	KAZ	102,01	200,0	<del>215,0</del>	222,5	160,0	<del>170,0</del>	<del>170,0</del>	170,0	180,0	190,0	572,5
6	Vaicekauskas Jonas	1998	LTU	101,89	175,0	182,5	<del>192,5</del>	145,0	<del>152,5</del>	152,5	185,0	195,0	205,0	540,0
—	Kashiwagi Yutaro	1997	JPN	100,15	<del>210,0</del>	<del>210,0</del>	<del>210,0</del>	190,0	210,0	212,5	160,0	X	X	DSQ
<b>-120kg</b>														
1	Stoll Alex	1997	USA	112,56	300,0	307,5	X	165,0	175,0	177,5	260,0	270,0	280,0	765,0
2	Magnusson Gudfinnur Snaer	1997	ISL	119,62	290,0	<del>300,0</del>	X	200,0	<del>210,0</del>	<del>210,0</del>	240,0	250,0	<del>267,5</del>	740,0
3	Pavlov Nikolay	1997	BUL	111,60	240,0	250,0	<del>260,0</del>	<del>180,0</del>	<del>180,0</del>	180,0	230,0	250,0	267,5	697,5
—	Asanov Viacheslav	1997	RUS	116,29	<del>330,0</del>	<del>330,0</del>	<del>330,0</del>	220,0	227,5	<del>242,5</del>	310,0	330,0	<del>340,0</del>	DSQ
<b>120+kg</b>														
1	Flores Rodolfo	1997	USA	144,41	<del>320,0</del>	330,0	360,5-ws	242,5	252,5	262,5	250,0	267,5	285,0	908,0 -ws
2	Zagrevskiy Alexandr	1998	KAZ	121,83	200,0	240,0	270,0	130,0	150,0	170,0	<del>210,0</del>	210,0	240,0	680,0
3	Abushakmanov Yuriy	1997	KAZ	132,37	<del>190,0</del>	190,0	<del>225,0</del>	90,0	110,0	<del>125,0</del>	200,0	220,0	235,0	535,0

## Nation (points)

1.	Russia	60	[12+12+12+12+12]	2455,35 w.pts.
2.	U.S.America	51	[12+12+9+9+9]	2325,33 w.pts.
3.	Kazakhstan	42	[9+9+8+8+8]	2082,95 w.pts.
4.	Japan	33	[9+7+6+6+5]	2129,43 w.pts.
5.	Lithuania	31	[12+7+5+5+2]	1973,18 w.pts.
6.	Ukraine	26	[12+8+6]	1452,36 w.pts.

## Best Lifters of Subjuniors

Rnk	Lifter	Nation
1	Musienko Kostiantyn	Ukraine
2	Flores Rodolfo	U.S.America
3	Murata Motoki	Japan



Juniors														
<b>-53kg</b>														
1	LaCoe Dalton	1995	USA	51,75	<del>185,0</del>	190,0	195,0	110,0	117,5	120,0	225,0	<del>240,0</del>	<del>240,0</del>	540,0
2	Arai Kazuma	1995	JPN	52,25	155,0	<del>175,0</del>	180,0	105,0	115,0	<del>120,0</del>	165,0	185,0	190,0	485,0
3	Yadne Gennadiy	1994	RUS	52,50	170,0	<del>180,0</del>	<del>185,0</del>	135,0	<del>140,0</del>	<del>140,0</del>	170,0	180,0	<del>185,0</del>	485,0
<b>-59kg</b>														
1	Chupakhin Maxim	1994	RUS	58,71	220,0	230,0	240,0	135,0	142,5	150,0	217,5	230,0	247,5	637,5
2	Alymbek uulu Azamat	1992	KGZ	58,85	210,0	220,0	<del>230,0</del>	145,0	152,5	<del>162,5</del>	242,5	255,0	<del>266,0</del>	627,5
3	Alymbek uulu Akzhol	1994	KGZ	58,59	220,0	235,0	245,0	140,0	145,0	150,0	220,0	<del>230,0</del>	230,0	625,0
4	Ramirez Regie	1993	PHI	58,00	220,0	<del>232,5</del>	<del>232,5</del>	125,0	135,0	142,5	230,0	242,5	247,5	610,0
5	Satake Yusuke	1996	JPN	58,58	230,0	240,0	<del>250,0</del>	140,0	150,0	<del>160,0</del>	210,0	220,0	<del>235,0</del>	610,0
6	Leos Mario	1992	USA	58,62	177,5	187,5	192,5	135,0	<del>142,5</del>	145,0	192,5	202,5	212,5	550,0
<b>-66kg</b>														
1	Okpoko Charles	1995	USA	65,51	265,0	280,0	285,0	170,0	177,5	182,5	250,0	260,0	<del>267,5</del>	727,5
2	Kiuchi Yosuke	1996	JPN	65,90	250,0	265,0	270,0	155,0	162,5	170,0	250,0	260,0	<del>270,0</del>	700,0
3	Vang James	1992	USA	65,48	242,5	<del>250,0</del>	<del>250,0</del>	<del>167,5</del>	167,5	180,0	245,0	257,5	272,5	695,0
4	Kuznetsov Leonid	1993	RUS	65,49	<del>275,0</del>	275,0	<del>280,0</del>	160,0	167,5	170,0	250,0	<del>260,0</del>	<del>260,0</del>	695,0
5	Suzuki Go	1994	JPN	65,06	235,0	<del>245,0</del>	250,0	170,0	<del>175,0</del>	175,0	245,0	257,5	<del>267,5</del>	682,5
6	Juricek Tomas	1992	CZE	65,60	217,5	232,5	242,5	160,0	165,0	170,0	<del>230,0</del>	245,0	<del>260,0</del>	657,5
7	Sukhorutchenko Mykyta	1995	UKR	65,91	242,5	250,0	255,0	160,0	167,5	<del>172,5</del>	232,5	<del>252,5</del>	<del>252,5</del>	655,0
8	Chessa Niccolo	1994	ITA	65,42	235,0	X	242,5	147,5	150,0	152,5	235,0	242,5	250,0	645,0
9	Perhac Adrian	1993	SVK	65,02	215,0	<del>230,0</del>	230,0	125,0	132,5	<del>137,5</del>	235,0	245,0	<del>257,5</del>	607,5
10	Price Steven	1992	CAN	64,20	242,5	<del>250,0</del>	255,0	75,0	110,0	115,0	225,0	232,5	<del>237,5</del>	602,5
<b>-74kg</b>														
1	Eriksson Alexander	1994	SWE	73,29	<del>275,0</del>	275,0	290,0	202,5	210,0	<del>215,0</del>	265,0	277,5	<del>287,5</del>	777,5
2	Lehew Stephen	1995	USA	73,25	260,0	<del>275,0</del>	<del>275,0</del>	205,0	212,5	220,0	270,0	285,0	<del>297,5</del>	765,0
3	Borodatyi Oleksandr	1994	UKR	73,24	285,0	295,0	300,0	<del>175,0</del>	175,0	185,0	260,0	270,0	<del>275,0</del>	755,0
4	Mishin Ilya	1995	RUS	73,46	275,0	285,0	<del>292,5</del>	175,0	180,0	<del>185,0</del>	270,0	282,5	<del>292,5</del>	747,5
5	Duff James	1992	GBR	73,91	280,0	290,0	297,5	155,0	160,0	<del>165,0</del>	255,0	262,5	<del>267,5</del>	720,0
6	Milla Marius	1993	GER	73,69	250,0	260,0	<del>265,0</del>	155,0	162,5	167,5	260,0	272,5	285,0	712,5
7	Suzuki Yoshiki	1993	JPN	73,53	<del>265,0</del>	265,0	<del>280,0</del>	170,0	180,0	<del>190,0</del>	245,0	260,0	265,0	710,0
8	Ono Takahiro	1994	JPN	73,42	270,0	280,0	<del>287,5</del>	<del>190,0</del>	<del>195,0</del>	195,0	200,0	<del>225,0</del>	<del>225,0</del>	675,0
9	Pribilik Ladislav	1993	CZE	73,68	220,0	230,0	240,0	130,0	140,0	152,5	245,0	255,0	<del>260,0</del>	647,5
10	Cingj Eray	1993	NED	72,97	230,0	240,0	245,0	145,0	150,0	155,0	225,0	237,5	<del>245,0</del>	637,5
11	Avram Laurentiu	1995	ROU	73,32	<del>222,5</del>	222,5	<del>230,0</del>	<del>177,5</del>	<del>177,5</del>	177,5	220,0	225,0	<del>230,0</del>	625,0
12	More Jan	1993	CZE	70,71	220,0	232,5	<del>240,0</del>	140,0	<del>147,5</del>	147,5	220,0	235,0	<del>245,0</del>	615,0
13	Olak Harri	1992	EST	73,57	180,0	X	X	105,0	X	X	285,0	<del>300,0</del>	<del>300,0</del>	570,0
—	Georgiev Bozhidar	1992	BUL	74,00	<del>265,0</del>	<del>265,0</del>	<del>265,0</del>	200,0	210,0	<del>217,5</del>	X	X	X	TD
<b>-83kg</b>														
1	Lebediev Oleksandr	1994	UKR	82,83	<del>320,0</del>	320,0	330,0	230,0	240,0	<del>250,0</del>	272,5	285,0	290,0	860,0
2	Sergeev Aleksandr	1992	RUS	82,88	310,0	320,0	330,0	<del>195,0</del>	195,0	205,0	270,0	285,0	<del>300,0</del>	820,0
3	Schnurr Julian	1994	GER	81,79	277,5	287,5	297,5	185,0	192,5	<del>197,5</del>	282,5	<del>295,0</del>	<del>295,0</del>	772,5
4	Lupas George	1993	ITA	81,04	285,0	295,0	300,0	<del>167,5</del>	167,5	175,0	275,0	285,0	<del>297,5</del>	760,0
5	Kapala Marcin	1992	POL	82,93	270,0	280,0	<del>290,0</del>	160,0	170,0	175,0	240,0	260,0	<del>272,5</del>	715,0
6	Furukawa Jun	1996	JPN	80,49	260,0	280,0	<del>285,0</del>	140,0	<del>160,0</del>	<del>160,0</del>	260,0	<del>280,0</del>	<del>280,0</del>	680,0
7	Dahl Mickel	1996	DEN	82,77	<del>257,5</del>	257,5	<del>265,0</del>	<del>142,5</del>	142,5	<del>150,0</del>	<del>270,0</del>	270,0	<del>285,0</del>	670,0
8	Stranq Ryan	1994	GBR	81,98	240,0	252,5	262,5	160,0	165,0	170,0	225,0	235,0	<del>242,5</del>	667,5
<b>-93kg</b>														
1	Vanshin Nikita	1992	RUS	92,29	320,0	<del>330,0</del>	<del>330,0</del>	250,0	260,0	270,0	287,5	297,5	310,0	900,0
2	Gunhamn Erik	1992	SWE	92,89	<del>320,0</del>	<del>325,0</del>	325,0	<del>200,0</del>	200,0	207,5	<del>330,0</del>	357,5	<del>370,0</del>	890,0
3	Rubets Oleksandr	1996	UKR	92,90	<del>360,0</del>	360,0	<del>372,5</del>	225,0	235,0	240,0	<del>287,5</del>	287,5	<del>302,5</del>	887,5
4	Gonge Jonathan	1992	DEN	91,96	305,0	315,0	<del>320,0</del>	215,0	220,0	<del>222,5</del>	302,5	315,0	325,0	860,0
5	Matthews Sam	1992	NZL	92,17	<del>290,0</del>	290,0	307,5	175,0	<del>185,0</del>	185,0	<del>270,0</del>	270,0	<del>282,5</del>	762,5
6	Cusano Anthony	1994	ITA	90,13	260,0	267,5	<del>275,0</del>	210,0	220,0	222,5	220,0	232,5	237,5	727,5
7	Graaf Franz	1996	GER	91,86	260,0	270,0	280,0	185,0	190,0	195,0	237,5	<del>250,0</del>	<del>255,0</del>	712,5
—	Bell Ian	1992	USA	92,16	<del>357,5</del>	<del>365,0</del>	<del>365,0</del>	210,0	<del>222,5</del>	<del>225,0</del>	352,5	<del>362,5</del>	X	DSQ
<b>-105kg</b>														
1	Lindseth Joachim	1992	NOR	104,50	<del>350,0</del>	357,5	<del>365,0</del>	242,5	247,5	252,5	<del>310,0</del>	310,0	320,0	930,0
2	Westbrook Nathan	1992	USA	104,11	320,0	340,0	347,5	<del>232,5</del>	235,0	242,5	300,0	315,0	322,5	912,5
3	Pristupnikov Anton	1993	RUS	104,38	330,0	345,0	352,5	220,0	230,0	<del>237,5</del>	315,0	<del>325,0</del>	<del>322,5</del>	897,5
4	Kovalov Danylo	1996	UKR	103,34	<del>350,0</del>	<del>350,0</del>	360,0	<del>230,0</del>	240,0	<del>250,0</del>	287,5	<del>302,5</del>	<del>307,5</del>	887,5
5	Bonifazi Stefano	1992	ITA	103,56	285,0	<del>300,0</del>	307,5	<del>230,0</del>	230,0	<del>247,5</del>	230,0	240,0	<del>250,0</del>	777,5
6	Yokoyama Kyohei	1994	JPN	103,84	<del>270,0</del>	<del>270,0</del>	270,0	195,0	217,5	<del>242,5</del>	230,0	242,5	<del>260,0</del>	730,0
7	Amarsaikhan Nyamdorj	1992	MGL	101,01	250,0	<del>270,0</del>	X	237,5	<del>250,0</del>	<del>252,5</del>	230,0	240,0	<del>247,5</del>	727,5
8	Roubik Lukas	1995	CZE	102,69	<del>250,0</del>	250,0	<del>265,0</del>	<del>170,0</del>	170,0	180,0	210,0	235,0	<del>245,0</del>	665,0
—	Leitow Tim	1994	GER	97,65	<del>310,0</del>	<del>310,0</del>	<del>317,5</del>	200,0	210,0	215,0	285,0	300,0	<del>310,0</del>	DSQ
—	Horiguchi Yosuke	1993	JPN	98,46	<del>310,0</del>	<del>310,0</del>	<del>310,0</del>	270,0	280,0	300,0	240,0	270,0	<del>300,0</del>	DSQ
—	Fredriksen Erik	1992	NOR	102,07	<del>330,0</del>	<del>330,0</del>	<del>330,0</del>	262,5	<del>272,5</del>	282,5	<del>280,0</del>	280,0	<del>295,0</del>	DSQ
—	Portes Adam	1995	CZE	102,78	300,0	315,0	<del>330,0</del>	<del>210,0</del>	<del>210,0</del>	<del>210,0</del>	290,0	<del>302,5</del>	<del>315,0</del>	DSQ
<b>-120kg</b>														
1	Usov Sergey	1993	RUS	118,20	365,0	385,0	390,0	300,0	322,5	<del>325,0</del>	300,0	310,0	320,0	1032,5
2	Dobbins Scott	1992	USA	118,65	370,0	382,5	387,5	255,0	265,0	<del>275,0</del>	295,0	310,0	315,0	967,5
3	Samuelsson Viktor	1993	ISL	119,43	340,0	352,5	357,5	280,0	287,5	292,5	300,0	310,0	315,0	965,0
4	Valach Robert	1992	SVK	119,52	<del>350,0</del>	350,0	<del>362,5</del>	220,0	<del>240,0</del>	<del>240,0</del>	320,0	330,0	340,0	910,0
5	Pahl Dominik	1992	GER	113,72	360,0	<del>377,5</del>	<del>385,0</del>	230,0	237,5	<del>245,0</del>	295,0	310,0	<del>315,0</del>	907,5
6	White Sebastian	1993	NOR	118,57	315,0	<del>327,5</del>	<del>327,5</del>	255,0	265,0	270,0	305,0	<del>315,0</del>	<del>322,5</del>	890,0
—	Jaeger Kevin	1995	GER	116,94	<del>350,0</del>	<del>357,5</del>	<del>360,0</del>	310,0	325,0	<del>343,5</del>	262,5	282,5	<del>300,0</del>	DSQ

120+kg														
1	Johannsson Julian J.K.	1993	ISL	154,11	375,0	<del>390,0</del>	<del>390,0</del>	275,0	285,0	<del>292,5</del>	300,0	330,0	352,5	1012,5
2	King Stephen	1992	USA	146,45	352,5	<del>360,0</del>	X	300,0	310,0	<del>330,0</del>	275,0	297,5	<del>327,5</del>	960,0
3	Gorga Gianmario	1992	ITA	133,80	340,0	<del>350,0</del>	<del>352,5</del>	240,0	250,0	<del>252,5</del>	280,0	300,0	307,5	897,5
4	Gudmundsson Thorbergur	1993	ISL	143,58	315,0	327,5	<del>335,0</del>	210,0	222,5	<del>232,5</del>	325,0	<del>342,5</del>	<del>342,5</del>	875,0
—	Dechamps Sebastien	1993	BEL	141,83	<del>330,0</del>	<del>330,0</del>	<del>330,0</del>	<del>230,0</del>	230,0	<del>235,0</del>	240,0	260,0	<del>262,5</del>	DSQ
—	Yakovlev Vyacheslav	1995	RUS	178,68	<del>365,0</del>	<del>365,0</del>	<del>365,0</del>	260,0	267,5	277,5	282,5	<del>300,0</del>	<del>305,0</del>	DSQ

				Best Lifters of Juniors							
				Rnk	Lifter	Nation					
1.	Russia	53	[12+12+12+9+8]	2803,22	w.pts.	1	Usov Sergey	Russia			
2.	U.S.America	51	[12+12+9+9+9]	2766,36	w.pts.	2	Lebediev Oleksandr	Ukraine			
3.	Ukraine	39	[12+8+8+7+4]	2727,89	w.pts.	3	Okpoko Charles	U.S.America			
4.	Japan	35	[9+9+6+6+5]	2560,60	w.pts.						
5.	Italy	29	[8+7+6+5+3]	2460,88	w.pts.						
6.	Iceland	27	[12+8+7]	1600,66	w.pts.						

### World Juniors & Sub-Juniors Women's Championships, Prague (Czech Republic), 31.08-06.09.2015

Sub-Juniors														
-43kg														
1	Mitchell Ashley	1997	USA	42,21	110,0	120,0	125,0	60,0	67,5	72,5	130,0	140,5-ws	148,0-ws	345,5 -ws
2	Rattunde Stephanie	1997	USA	42,76	<del>122,5</del>	122,5	130,0	60,0	65,0	70,0	120,0	<del>132,5</del>	<del>140,0</del>	320,0
3	Masangkay Joan	1998	PHI	42,20	95,0	105,0	112,5	47,5	52,5	55,0	100,0	110,0	<del>120,0</del>	277,5
4	Bovkun Mariya	2001	KAZ	42,66	<del>85,0</del>	85,0	<del>90,0</del>	42,5	45,0	<del>50,0</del>	80,0	82,5	87,5	217,5
-47kg														
1	LaChapelle Taylor	1999	USA	46,33	145,0	157,5-ws	160,0-ws	80,0	<del>82,5</del>	<del>82,5</del>	132,5	142,5	<del>145,0</del>	382,5 -ws
2	Bautista Jeremy Reign	1999	PHI	46,99	110,0	125,0	135,0	50,0	60,0	<del>67,5</del>	110,0	122,5	<del>145,0</del>	317,5
3	Petrusha Mariia	2001	UKR	46,64	102,5	107,5	112,5	50,0	55,0	57,5	100,0	105,0	<del>107,5</del>	275,0
4	Zhurbina Anastassiya	1999	KAZ	46,78	95,0	<del>100,0</del>	<del>100,0</del>	62,5	67,5	<del>70,0</del>	92,5	95,0	<del>97,5</del>	257,5
5	Uemura Mayu	1997	JPN	45,02	75,0	80,0	85,0	40,0	45,0	50,0	90,0	100,0	105,0	240,0
6	Serban Ioana	1999	ROU	46,23	65,0	<del>75,0</del>	<del>75,0</del>	30,0	32,5	<del>40,0</del>	75,0	77,5	95,0	192,5
-52kg														
1	Hutchins Tristyn	1997	USA	51,44	<del>145,0</del>	145,0	<del>155,0</del>	87,5	100,0	105,0	132,5	142,5	145,0	395,0
2	Lazebna Daria	1998	UKR	52,00	135,0	<del>147,5</del>	147,5	85,0	90,0	95,0	120,0	135,0	<del>147,5</del>	377,5
3	Bindac Maria	1999	ROU	51,46	105,0	<del>110,0</del>	<del>110,0</del>	65,0	67,5	70,0	117,5	125,0	135,0	310,0
4	Reich Chyenne	1998	AUT	51,24	95,0	105,0	110,0	55,0	60,0	62,5	110,0	120,0	<del>127,5</del>	292,5
5	Akazawa Ren	1999	JPN	51,62	110,0	<del>120,0</del>	<del>120,0</del>	57,5	62,5	70,0	90,0	100,0	<del>105,0</del>	280,0
-57kg														
1	Lent Lauren	1997	USA	56,15	182,5	195,0	200,0	85,0	90,0	92,5	165,0	175,5-ws	183,0-ws	475,5 -ws
2	Kolesnik Daniela	1999	RUS	56,15	<del>170,0</del>	170,0	<del>180,0</del>	<del>120,0-ws</del>	<del>130,0-wj</del>	160,0	<del>165,0</del>	<del>170,0</del>	<del>170,0</del>	460,0 -ws
3	Sjoel Lena	1997	NOR	55,68	150,0	160,0	<del>165,0</del>	92,5	100,0-cs	102,5	152,5	160,0	<del>167,5</del>	422,5
4	Alekseeva Kristina	1997	RUS	56,59	160,0	170,0	<del>180,0</del>	<del>82,5</del>	87,5	90,0	140,0	<del>155,0</del>	155,0	415,0
5	Kobayashi Nobuyo	1997	JPN	54,22	140,0	147,5	<del>160,0</del>	75,0	80,0	<del>87,5</del>	110,0	120,0	125,0	352,5
6	Reich Dakota	1998	AUT	55,64	105,0	115,0	120,0	60,0	65,0	<del>70,0</del>	120,0	130,0	140,0	325,0
7	Kurusu Aya	1998	JPN	55,18	<del>110,0</del>	<del>110,0</del>	110,0	55,0	60,0	65,0	95,0	110,0	<del>120,0</del>	285,0
-63kg														
1	Krueger Sonja-Stefanie	1999	GER	60,33	180,0	187,5	190,5-ws	100,0	105,0	<del>112,5</del>	137,5	147,5	152,5	448,0
2	Ischchuk Arina	1998	RUS	60,79	172,5	182,5	<del>190,0</del>	80,0	85,0	<del>87,5</del>	150,0	162,5	<del>182,5</del>	430,0
3	Kroll Samantha	1997	USA	60,15	<del>145,0</del>	150,0	162,5	90,0	95,0	102,5	140,0	150,0	<del>155,0</del>	415,0
4	Krasnova Ruslana	2000	UKR	62,42	<del>155,0</del>	155,0	<del>165,0</del>	<del>85,0</del>	85,0	90,0	140,0	<del>152,5</del>	<del>155,0</del>	385,0
5	Malcherek Magdalena	1998	POL	62,16	<del>140,0</del>	140,0	155,0	<del>80,0</del>	80,0	85,0	140,0	<del>150,0</del>	<del>152,5</del>	380,0
6	Obrslikova Kristyna	1998	CZE	61,50	130,0	<del>140,0</del>	<del>140,0</del>	72,5	<del>80,0</del>	80,0	120,0	<del>130,0</del>	<del>130,0</del>	330,0
7	Yoshida Mayu	1997	JPN	62,13	115,0	127,5	132,5	50,0	55,0	<del>60,0</del>	120,0	127,5	132,5	320,0
-72kg														
1	Atamanova Irina	1998	RUS	65,63	162,5	172,5	<del>180,0</del>	92,5	97,5	100,0	145,0	150,0	155,0	427,5
2	Shashkova Darya	1997	UKR	71,44	165,0	175,0	180,0	92,5	95,0	97,5	135,0	142,5	<del>152,5</del>	420,0
3	Rosquist Isabella	1997	SWE	71,53	<del>147,5</del>	<del>150,0</del>	150,0	77,5	82,5	87,5	162,5	<del>177,5</del>	<del>185,0</del>	400,0
4	Kudo Michiru	1997	JPN	66,42	112,5	125,0	<del>135,0</del>	75,0	80,0	<del>87,5</del>	110,0	117,5	122,5	327,5
5	Nesterova Anastassiya	1998	KAZ	70,99	110,0	117,5	130,0	60,0	65,0	70,0	70,0	90,0	105,0	305,0
6	Shinoda Asami	1998	JPN	64,20	105,0	<del>115,0</del>	<del>115,0</del>	55,0	60,0	65,0	100,0	110,0	115,0	285,0
-84kg														
1	Nikolaenko Alina	1997	RUS	79,55	170,0	180,0	190,0	97,5	107,5	112,5	150,0	160,0	167,5	470,0
2	Curtis Mackenzie	1997	USA	81,18	<del>185,0</del>	185,0	192,5	72,5	87,5	97,5	165,0	<del>170,0</del>	<del>182,5</del>	455,0
3	Didenko Tatiana	1997	RUS	83,26	150,0	160,0	170,0	102,5	107,5	<del>110,0</del>	160,0	<del>170,0</del>	<del>170,0</del>	437,5
4	Baumann Ramona	1998	AUT	76,56	137,5	150,0	155,0	95,0	102,5	107,5	122,5	130,0	137,5	400,0
5	Skudrikova Katerina	1997	CZE	81,89	140,0	150,0	160,0	<del>75,0</del>	75,0	85,0	120,0	130,0	140,0	385,0
6	Czerw Magdalena	1997	POL	76,42	110,0	117,5	<del>122,5</del>	75,0	<del>85,0</del>	<del>85,0</del>	140,0	150,0	<del>160,0</del>	342,5
7	Beresneva Natalya	1997	KAZ	76,28	112,5	<del>125,0</del>	<del>130,0</del>	50,0	57,5	60,0	100,0	<del>120,0</del>	130,0	302,5
84+kg														
1	Storks China	1997	USA	119,45	190,0	<del>202,5</del>	202,5	105,0	115,0	125,0	155,0	165,0	<del>170,0</del>	492,5
2	Vajda Fanni	1997	HUN	106,66	175,0	<del>185,0</del>	190,0	110,0	117,5	<del>125,0</del>	160,0	<del>175,0</del>	<del>185,0</del>	467,5
3	Meier Regina	1999	KAZ	90,79	<del>150,0</del>	<del>150,0</del>	150,0	45,0	65,0	75,0	110,0	130,0	<del>160,0</del>	355,0

Nation (points)				Best Lifters of Subjuniors				
1.	U.S.America	60	[12+12+12+12+12]	2468,46	w.pts.	Rnk	Lifter	Nation
2.	Russia	50	[12+12+9+9+8]	2283,29	w.pts.	1	Lent Lauren	U.S.America
3.	Ukraine	33	[9+9+8+7]	1670,94	w.pts.	2	Kolesnik Daniela	Russia
4.	Kazakhstan	32	[8+7+7+6+4]	1550,74	w.pts.	3	LaChapelle Taylo	U.S.America
5.	Japan	30	[7+6+6+6+5]	1749,10	w.pts.			
6.	Austria	19	[7+7+5]	1128,64	w.pts.			



Juniors														
<b>-43kg</b>														
1	Nemoto Kozue	1992	JPN	42,75	<del>44,0</del>	110,0	112,5	57,5	62,5	67,5	125,0	135,0	140,0	320,0
2	Vu Tiffany	1992	USA	42,46	110,0	115,0	<del>120,0</del>	55,0	57,5	<del>62,5</del>	132,5	142,5	<del>147,5</del>	315,0
<b>-47kg</b>														
1	Primakova Irina	1992	RUS	46,76	147,5	152,5	<del>155,0</del>	82,5	<del>87,5</del>	87,5	127,5	132,5	<del>137,5</del>	372,5
2	Hudson Allegra	1994	USA	46,75	132,5	<del>145,0</del>	147,5	67,5	<del>72,5</del>	<del>72,5</del>	137,5	147,5	<del>157,5</del>	362,5
3	Shlopko Tetyana	1996	UKR	46,66	140,0	<del>150,0</del>	<del>150,0</del>	77,5	82,5	<del>85,0</del>	127,5	135,0	<del>140,0</del>	357,5
4	Hayakawa Kotomi	1995	JPN	46,59	115,0	<del>120,0</del>	120,0	77,5	82,5	<del>87,5</del>	115,0	122,5	<del>130,0</del>	325,0
5	Martin Jasmine	1993	PHI	45,14	120,0	<del>127,5</del>	127,5	52,5	<del>57,5</del>	<del>57,5</del>	140,0	<del>147,5</del>	<del>147,5</del>	320,0
6	Irifune Mitsuki	1994	JPN	46,57	<del>130,0</del>	130,0	<del>145,0</del>	60,0	65,0	<del>72,5</del>	110,0	120,0	<del>127,5</del>	315,0
<b>-52kg</b>														
1	Filimonova Anna	1994	RUS	51,55	165,0	175,0	<del>182,5-cj</del>	90,0	92,5	102,5	140,0	155,0	160,0	445,0
2	Hesthammer Karen	1994	NOR	51,53	160,0	167,5	<del>172,5</del>	90,0	<del>95,0</del>	<del>95,0</del>	150,0	155,0	157,5	415,0
3	Smolekho Tatiana	1996	RUS	51,76	<del>150,0</del>	150,0	150,0	105,0	112,5-wj	120,0	130,0	140,0	145,0	415,0
4	Fosseide Julie	1992	NOR	51,72	137,5	145,0	<del>150,0</del>	75,0	77,5	<del>80,0</del>	140,0	147,5	<del>157,5</del>	370,0
5	Fujinami Ruri	1994	JPN	49,85	125,0	135,0	<del>140,0</del>	60,0	65,0	67,5	120,0	130,0	<del>135,0</del>	332,5
—	Minami Ayasa	1993	JPN	50,41	<del>130,0</del>	<del>130,0</del>	<del>130,0</del>	<del>85,0</del>	85,0	<del>95,0</del>	<del>110,0</del>	X	X	DSQ
—	Balea Maria	1996	ROU	50,86	<del>100,0</del>	<del>100,0</del>	<del>100,0</del>	75,0	85,0	<del>87,5</del>	100,0	<del>110,0</del>	X	DSQ
<b>-57kg</b>														
1	Karlysheva Victoria	1993	RUS	56,77	195,0	<del>210,0</del>	<del>212,5-wj</del>	110,0	115,0	117,5	167,5	177,5	180,0	<del>510,0-wj</del>
2	Johnson Kimberly	1994	USA	55,36	155,0	165,0	<del>172,5</del>	100,0	107,5	<del>115,0</del>	150,0	162,5	172,5	445,0
3	Ilnytska Mariya	1995	UKR	55,97	150,0	160,0	<del>170,0</del>	95,0	102,5	105,0	150,0	162,5	<del>172,5</del>	427,5
4	Bruvere Milda	1994	LTU	56,61	<del>162,5</del>	165,0	<del>172,5</del>	<del>70,0</del>	70,0	<del>77,5</del>	137,5	142,5	147,5	382,5
5	Sabathy Marlene	1996	AUT	54,23	<del>145,0</del>	<del>150,0</del>	150,0	67,5	75,0	80,0	122,5	135,0	140,0	370,0
6	Pearce Robyn	1992	CAN	55,98	<del>147,5</del>	147,5	<del>157,5</del>	77,5	80,0	<del>82,5</del>	125,0	<del>130,0</del>	130,0	357,5
<b>-63kg</b>														
1	Aquinaga Johanna	1993	ECU	62,41	180,0	<del>190,0</del>	190,0	132,5	140,0	<del>145,5-wj</del>	165,0	172,5	<del>177,5</del>	508,0
2	Engmark Erle	1993	NOR	62,74	175,0	182,5	<del>185,0</del>	120,0	125,0	127,5	175,0	185,0	192,5	502,5
3	Galanova Anastasiya	1992	RUS	61,61	<del>180,0</del>	180,0	190,0	120,0	125,0	127,5	175,0	<del>182,5</del>	182,5	500,0
4	Terahara Maruru	1993	JPN	62,10	180,0	190,0	200,0	105,0	<del>112,5</del>	112,5	160,0	<del>170,0</del>	<del>172,5</del>	472,5
5	Vilmar Matilda	1996	SWE	62,51	<del>167,5</del>	170,0	177,5	115,0	122,5	<del>125,0</del>	140,0	150,0	160,0	460,0
6	Pizniak Natalia	1992	UKR	62,60	<del>165,0</del>	170,0	<del>185,0</del>	95,0	105,0	112,5	150,0	165,0	175,0	457,5
7	Lichtnecker Lara	1992	AUT	60,12	120,0	<del>127,5</del>	<del>127,5</del>	67,5	72,5	<del>75,0</del>	130,0	<del>135,0</del>	140,0	332,5
—	Scholz Anne-Jasmin	1996	GER	62,55	140,0	<del>147,5</del>	X	<del>75,0</del>	<del>77,5</del>	<del>77,5</del>	132,5	142,5	<del>152,5</del>	DSQ
—	Pineda Whelma	1992	ITA	62,79	145,0	155,0	<del>165,0</del>	<del>90,0</del>	<del>90,0</del>	<del>90,0</del>	145,0	<del>155,0</del>	<del>155,0</del>	DSQ
<b>-72kg</b>														
1	Tunroth Marie	1992	SWE	71,55	<del>207,5</del>	207,5	217,5	122,5	127,5	130,0	200,0	207,5	<del>225,0</del>	555,0
2	Putilina Anastasiia	1995	RUS	70,66	205,0	<del>215,0</del>	225,0	140,0	<del>147,5</del>	<del>150,0-cj</del>	172,5	177,5	<del>180,0</del>	552,5
3	Crawford Beverly	1992	USA	71,67	215,0	<del>220,0</del>	X	<del>117,5</del>	<del>117,5</del>	117,5	190,0	197,5	200,0	532,5
4	Kapstad Silvia	1996	NOR	71,81	<del>190,0</del>	190,0	202,5	122,5	130,0	132,5	182,5	192,5	<del>200,0</del>	527,5
5	Orobets Yuliya	1995	UKR	71,34	<del>200,0</del>	200,0	<del>210,0</del>	95,0	<del>105,0</del>	105,0	175,0	185,0	<del>197,5</del>	490,0
6	Young Dakota	1996	USA	71,45	192,5	<del>197,5</del>	<del>197,5</del>	102,5	105,0	107,5	180,0	185,0	<del>192,5</del>	485,0
7	Zellino Martina	1993	ITA	67,49	165,0	<del>172,5</del>	<del>180,0</del>	90,0	<del>95,0</del>	<del>95,0</del>	145,0	<del>155,0</del>	<del>160,0</del>	400,0
8	Nakano Emi	1993	JPN	63,42	130,0	<del>140,0</del>	<del>140,0</del>	90,0	100,0	<del>117,5</del>	130,0	140,0	<del>147,5</del>	370,0
<b>-84kg</b>														
1	Hamm Mariah	1992	USA	82,78	225,0	<del>237,5</del>	237,5	135,0	<del>142,5</del>	<del>145,0</del>	177,5	185,0	<del>197,5</del>	557,5
2	Kielsen Birgitte	1996	NOR	78,57	200,0	210,0	215,0	135,0	142,5	147,5	175,0	182,5	187,5	550,0
3	Baranova Ekaterina	1992	RUS	83,78	220,0	225,0	<del>230,0</del>	137,5	142,5	150,0	175,0	<del>180,0</del>	<del>180,0</del>	550,0
4	Ivanova Elena	1992	RUS	83,81	210,0	220,0	227,5	145,0	<del>157,5</del>	157,5	150,0	160,0	<del>167,5</del>	545,0
5	Hoas Katrine	1992	NOR	77,28	192,5	200,0	<del>205,0</del>	140,0	145,0	<del>150,0</del>	180,0	190,0	<del>195,0</del>	535,0
6	Kasperska Kamila	1992	POL	81,83	220,0	<del>230,0</del>	<del>230,0</del>	110,0	115,0	<del>120,0</del>	180,0	190,0	<del>192,5</del>	525,0
<b>84+kg</b>														
1	Clark Jaelynn	1996	USA	121,31	247,5	260,0	<del>265,0</del>	140,0	147,5	<del>155,0</del>	205,0	212,5	220,0	627,5
2	Andrews Ashleigh	1994	USA	95,75	215,0	<del>225,0</del>	225,0	<del>162,5</del>	162,5	<del>170,0</del>	182,5	<del>192,5</del>	<del>192,5</del>	570,0
3	Koteles Maria	1992	HUN	147,61	200,0	215,0	<del>225,0</del>	130,0	165,0	172,5	160,0	180,0	<del>192,5</del>	567,5

#### Nation (points)

1.	Russia	53	[12+12+12+9+8]	2747,35 w.pts.
2.	U.S.America	51	[12+12+9+9+9]	2500,56 w.pts.
3.	Norway	41	[9+9+9+7+7]	2549,71 w.pts.
4.	Japan	37	[12+7+7+6+5]	2266,64 w.pts.
5.	Ukraine	27	[8+8+6+5]	1961,48 w.pts.
6.	Sweden	18	[12+6]	1040,89 w.pts.
7.	Ecuador	12	[12]	549,50 w.pts.
8.	Austria	10	[6+4]	816,58 w.pts.
9.	Hungary	8	[8]	437,49 w.pts.
10.	Lithuania	7	[7]	446,26 w.pts.
11.	Philippines	6	[6]	442,82 w.pts.
12.	Poland	5	[5]	474,49 w.pts.
13.	Canada	5	[5]	420,74 w.pts.
14.	Italy	4	[4]	408,28 w.pts.

#### Best Lifters of Juniors

Rnk	Lifter	Nation
1	Karlysheva Victoria	Russia
2	Filimonova Anna	Russia
3	Aquinaga Johanna	Ecuador